

# BOOKS

久原正治

立命館アジア太平洋大学経営大学院 教授

## 退化するアメリカ、 進化するヨーロッパ

筆者の勤務する大学は留学生が多く英語で授業を行う。多様なアジアからの留学生に経済や経営をどのように教えるかは難題である。英語のテキストのほとんどは、経営の効率性を追求するアメリカで発達した理論とアメリカ企業のケースを中心に書かれ、これをそのままアジアの学生に



① **The European Dream**  
Jeremy Rifkin  
Polity Press  
2005

間や環境の価値に重点を置き多極的な統合の道を探るヨーロッパの経済や経営が注目を浴びている。拡大を続けるEUとヨーロッパの資本主義は宗教や地域経済統合の枠組みを超え、未来に広がる経済や経営の理念を我々に問いかけている。  
①は、今学期ゼミで輪読に取り上げている良書である。著者は利益至上主義で行き詰まりを見せるアメリカ社会に比べ、福祉と市民を軸に多



② **アメリカ型資本主義を嫌悪するヨーロッパ**  
福島清彦  
亜紀書房  
2006年3月

と危険とが隣り合わせの社会となつてしまった。これに対し、多元性を基盤に、帰属できるコミュニティと持続的な経済の発展、生活の質といった人間的側面に焦点を当てる欧州の夢が現在の世界では力を持つてきているとする。このような著者の考えは、アジアの多様な背景で育った留学生にも共感を与えている。  
②は、マネーゲームを追求し資本主義を暴発させるアメリカと、普遍性の

法では、域内での多様な福祉国家造りとさらなる統合、域外に対しては貧富の差の軽減と地球環境を保全しながら持続可能な発展を支援することが明記され、内政、外交の両面でアメリカの一極大国主義の思想に對置する考え方を示している。  
これまでの日本の経営教育はアメリカ型の市場原理主義の下で鍛えられたMBA的なツールの紹介に偏りすぎており、個人に對置する組織、市民

教えると違和感が残る。そこで、日本の経済や組織の理論はアメリカで発達したものに頼るが、ケースにはなるべく日本の企業を取り上げ、日米を比較相対化して教えるという方法が効果的になる。しかしながら、典型的な日米の経営はある意味で共に特殊であり、そのミクロの経営やマクロの枠組みがアジアの途上国にそのまま通用するとも思えない。そのような中で、長い歴史と伝統を持ち、人

極的社會の統合を試みる欧州社會の夢こそ、相互依存を深めグローバル化を進める世界にとり理想的社會のモデルとなるとする。アメリカは個人の力で成功を求め人々が集まり、富の蓄積競争と財産権の保護のための厳しいルールを定め、政府は最小の介入を行う機会平等の社會である。ここでは個人の物質的欲望の達成に重点が置かれるあまり、コミュニティは崩壊し、貧富の差は拡大し、多様性

ある理念と目標を掲げ多様な文化を尊重し社會的市場經濟の道を歩もうと苦闘するヨーロッパの現状を對比しながら、このテーマに関するさまざまな議論を要領よくまとめている。個人の自立とリスクテイクをベースとして市場と宗教原理主義の傾向を深めるアメリカに対し、ヨーロッパは共生と調和を求め、市場と國家、市民をつなぐ信頼や規範を重視し、脱宗教世俗國家の道を選択した。EU憲

社會や國家の大きな枠組みを理解するような視点が欠落している。かつて日本のビジネス・リーダーはマルクス經濟學を学ぶことで、日常のビジネスと労働、國家や市民社會との相対化という思考の幅を与えられていた。多様性の中に信頼や調和の傳統を持つアジアや日本のビジネスマンにとり、共生と調和を基盤に多極社會の統合を模索するヨーロッパ型資本主義の動向や考え方から学ぶ点は多い。